Gunma University Kobayashi Laboratory

高速応答・低リップル電源用 カップルドインダクタの解析

群馬大学大学院 工学研究科 電気電子工学専攻 情報通信システム第2研究室 小林研究室

OSANTHOS ARIO WIBOWO 張挺 光野 正志 田浦 哲也 森 偉文樹 小堀 康功 小林 春夫

■研究背景と目的 ■ 降圧型DC-DCコンバータの原理 ■ カップルド・インダクタを用いたDC-DCコンバータ 定常状態における理論解析 過渡状態における理論解析 ■ 状態平均化方程式による理論解析 ■ シミュレーションと実験結果 ■ まとめ

■研究背景と目的

■降圧型DC-DCコンバータの原理

■ カップルド・インダクタを用いたDC-DCコンバータ

- ・ 定常状態における理論解析
- 過渡状態における理論解析
- ■状態平均化方程式による理論解析
 ■シミュレーションと実験結果
- まとめ

研究背景と目的

- マイクロプロセッサなどのデジタルシステム用 電源への要求:
 - 低電圧·大電流出力
 - <u>低リップル</u>
 - 高速応答性

定常状態:

L大:出力リップルが小さい

過渡状態:

L大:応答が遅い(×)

L小:出力リップルが大きい(×) L小:応答が速い

定常状態と過渡状態では、レンオする要求が正反対!

研究背景と目的

定常状態での低リップル・過渡状態での高速応答性



カップルド・インダクタを用いた降圧型DC-DCコンバータ ✓ カップルドインダクタ 高速応答 各相電流リップルの低減

2相カップルド・インダクタ降圧型DC-DCコンバータの 理論解析・シミュレーションと実験による

- > カップルド・インダクタの特徴の明確化
- ▶ 設計指針パラメータの検討

■研究背景と目的 ■降圧型DC-DCコンバータの原理 ■ カップルド・インダクタを用いたDC-DCコンバータ 過渡状態における理論解析 ■状態平均化方程式による理論解析 ■ シミュレーションと実験結果 ■ まとめ

降圧型DC-DCコンバータの原理

• 降圧型スイッチング電源



◆ TopMOSがONのとき:

$$\Delta I_L = \frac{Vin - Vout}{L} Ton$$

BottomMOSがONのとき:

$$Vout = \frac{Ton}{Ton + Toff} Vin$$
$$= \frac{Ton}{T} Vin To$$

(比率)によって決定!

$$\Delta I_L = -\frac{Vout}{L} Toff$$

= <u>Ion</u> T Vin TopMOSがONのときの電流の変化量 ॥ *出力電圧はクロックデューティ* BottomMOSがONのときの電流の変化量

■研究背景と目的 ■ 降圧型DC-DCコンバータの原理 ■ カップルド・インダクタを用いたDC-DCコンバータ 定常状態における理論解析 過渡状態における
 理論解析 ■状態平均化方程式による理論解析 ■ シミュレーションと実験結果 ■ まとめ

カップルド・インダクタの特徴



カップルド・インダクタは回路動作により インダクタンスを自動的に調整

 ・定常状態: 自己インダクタンスが主→インダクタンス 大(低リップル)
 ・過渡状態: 漏れインダクタンスが主→インダクタンス 小(高速応答)

カップルド・インダクタを用いた2相降圧型コンバータ



$$M = k \sqrt{\left(L_1 \cdot L_2\right)} < 0$$

$$V_{1} \quad L\frac{di_{1}}{dt} \quad M\frac{di_{2}}{dt}$$
$$V_{2} \quad L\frac{di_{2}}{dt} \quad M\frac{di_{1}}{dt}$$

スイッチングの波形:



モード 1 ➡ S1 and S4 On S2 and S3 Off モード 2 ➡ S2 and S4 On S1 and S3 Off モード 3 ➡ S2 and S3 On S1 and S4 Off

各モードにおける等価インダクタンスの導出 (Duty ≦ 50%)



定常状態における平均等価インダクタンスの導出 (Duty ≦ 50%)



一周期における平均インダクタ
 電流を基づいて:



• 定常状態の等価インダクタンス:





定常状態における平均等価インダクタンスの導出 (Duty ≧ 50%)



一周期における平均インダクタ
 電流を基づいて:



・ 定常状態の等価インダクタンス:

$$\frac{\frac{1}{L_{eq}}}{\frac{1}{L_{eq}}} = \frac{(1-D)}{L_{eq1}} + \frac{(1-D)}{L_{eq3}}$$
$$\frac{\frac{1}{L_{eq3}}}{\frac{1}{L_{eq3}}} = \frac{1}{L} \cdot \frac{1+k \cdot \frac{1-D}{D}}{1-k^2}$$

$$\overline{L_{eq}} = L_{eq3} \quad \square \qquad \searrow \quad \overline{L_{eq}} = L \frac{1 - k^2}{1 + k \cdot \frac{1 - D}{D}}$$

デューティ50%以下と50%以上の関係⇒ミラー!

-eq

0 u t l i n e

•					
0		圧 型 D C -	DCコンバー	ターの 原	
•	力	ップルド・イ	ンダクタを用	いたD	C - D C コ ン バ ー タ
		 定 常 状 			
		· 過 渡 状	態 に お け る	理 論 解	析
0					
۰					

カップルド・インダクタを用いることによる高速応答特性



過渡状態における平均等価インダクタンスの理論解析



過渡状態における平均等価インダ
 クタンスはモード2の等価インダク
 タンスで決定される:

$$L_{eq2} = L + M$$
$$= L(1+k)$$

k<Oにおいて (Inverse Coupling)</p>



■研究背景と目的 ■ 降圧型DC-DCコンバータの原理 ■ カップルド・インダクタを用いたDC-DCコンバータ 過渡状態における
 理論解析 ■ 状態平均化方程式による理論解析 ■ シミュレーションと実験結果 ■ まとめ

状態平均化方程式による理論解析



状態平均化方程式による理論解析 (D≦50%)

状態平均化方程式により、次式を得る

$$\begin{aligned} \frac{d}{dt} \begin{bmatrix} i_{out} \\ V_{out} \end{bmatrix} &= \begin{bmatrix} 0 & -2 \underbrace{1+k\left(\frac{D}{1-D}\right)}_{L(1-k^{2})} \\ \frac{1}{C} & -\frac{1}{CR} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} i_{out} \\ V_{out} \end{bmatrix} + 2 \underbrace{\left[\frac{D+k\frac{D^{2}}{1-D}}{L(1-k^{2})}\right]}_{0} Vin \\ \frac{d}{dt} \begin{bmatrix} i_{out} \\ V_{out} \end{bmatrix} &= \frac{d}{dt} X = 0 \quad \textbf{LSC}, \\ X &= -A^{-1} \cdot BVin \\ A^{-1} &= \frac{1}{\det} \begin{bmatrix} -\frac{1}{CR} & \frac{2\left\{1+k\left(\frac{D}{1-D}\right)\right\}}{L(1-k^{2})} \\ -\frac{1}{C} & 0 \end{bmatrix} \end{bmatrix} \\ A^{-1} &= \frac{1}{\det} \begin{bmatrix} -\frac{1}{CR} & \frac{2\left\{1+k\left(\frac{D}{1-D}\right)\right\}}{L(1-k^{2})} \\ -\frac{1}{C} & 0 \end{bmatrix} \end{bmatrix} \\ det &= \frac{2\left\{1+k\left(\frac{D}{1-D}\right)\right\}}{LC(1-k^{2})} \end{bmatrix} \end{aligned}$$

電圧変換率は結合係数の値に依存しない!

■研究背景と目的 ■ 降圧型DC-DCコンバータの原理 ■ カップルド・インダクタを用いたDC-DCコンバータ 過渡状態における理論解析 ■状態平均化方程式による理論解析 ■ シミュレーションと実験結果 ■ まとめ

結合係数(k)について (Duty ≦ 50%)

• 最も低い各相電流リップルを得るための結合係数:





• 結合係数 k<0

$$\therefore k = (-1 + \sqrt{1 - A^2}) / A$$

Duty	10%	20%	30%	40%	50%
F	1.003	1.016	1.051	1.146	×
Coupling Coefficient k	-0.056	-0.128	-0.225	-0.382	-1

各相電流リップルの減少率の導出



Jncoupled :
$$I_{pp-uncoupled} = \frac{di_L}{dt} \times T_{off}$$

= $(1-D)Ts \cdot \frac{Vout}{L}$
Coupled : $I_{pp-coupled} = \frac{di_L}{dt} \times T_{off}$
= $(1-D)Ts \cdot \frac{Vout}{L_{eg}}$

Ripple Reduction : $\frac{\Delta I_{pp}}{I_{pp-uncoupled}} = \frac{-k\left(k + \frac{D}{1-D}\right)}{1-k^2}$

Coupling Coefficient	Duty	Ripple Reduction
-0.056	10%	0.31%
-0.128	20%	1.59%
-0.225	30%	4.83%
-0.382	40%	12.73%
-0.99	50%	49.75%

シミュレーションと実験の環境



回路図. カップルド・インダクタを用いた 2相降圧型DC-DCコンバータ



• 定常状態

- Vin Vout
- Fs

- : 5 [V]
- : 1.2 [V]
 - : 200 [KHz]
- Cout : 220 [uF]
- L1=L2=L: 15 [uH]
- k=M/L : -0.2
- 負荷変動 $1.2 [A] \Rightarrow 3.6 [A]$

シミュレーション結果 各相電流リップルの比較



実験結果 各相電流リップルの比較

Uncoupled

Coupled k=-0.2



Ripple reduction : 20.5%

シミュレーション結果 過渡応答

Uncoupled

Coupled k=-0.2



Undershoot reduction : 11.5%

Overshoot reduction : 13%



Uncoupled

Coupled k=-0.2



Undershoot reduction : 10%

Overshoot reduction : 9.5%

■研究背景と目的 ■ 降圧型DC-DCコンバータの原理 ■ カップルド・インダクタを用いたDC-DCコンバータ 過渡状態における理論解析 ■状態平均化方程式による理論解析 ■ シミュレーションと実験結果 ■ まとめ

まとめ

 カップルド・インダクタ2相降圧型 DC-DCコンバータの理論解析 • 高速応答性 各相電流リップル 明確化 設計指針パラメータ (Duty=24%, k=-0.2) シミュレーションと実験 シミュレーション: 実験: アンダーシューの減少 アンダーシューの減少 10% 11.5% オーバーシュートの減少 オーバーシュートの減少 13% 9.5% 各相電流リップルの減少 各相電流リップルの減少 20.5% 2.6%

デューティに対する結合係数の特性



